



～礼儀と節度を考える～

# 平成武師道

## 〈人間活動学〉

もう一度、問うてみよう。

義とは何か？

個人の義とは？ 家庭の義とは？ 会社の義とは？ 国家の義とは？

義。

この字は、我を美しく生きると書く。義とは美しく生きる指針を言う。それでは美しく生きるとはどういう事だろう。今の日本に美しく生きている、と胸を張って言える人がどれくらいいるだろうか。おそらく皆無に等しいかもしれない。今の日本には、口先だけで行動をしない愚かで愚鈍な人間が増えてきた。そのような状況下の中、人と人との間に美徳を求める事はとても難しい。

そこで、美しくない人生を考えてみてはどうだろう。美しくないとは汚い事。汚い生き方と例えた方が、けっこう周りにころがっている。嘘つき、卑怯、無責任。

おそらく日常、普通に生活していてもこの類の人間の皮を被った獣達に出会い、清らかな心を踏みにじられる事があるだろう。黒く、ドス黒く汚れきった心、精神を持ちながらも、さも清廉潔白な顔で近付いてくる。いくら笑顔を作っても、その目の奥にはドロドロとしたドス黒いものが蠢いている。利用できるものはとことん利用し、不要になったらゴミのように使い捨て。テレビを付けても下世話なワイドショーならいざ知らず、最近ではニュース番組でも無責任な報道の連続。本当に汚い事を挙げればキリがない。

ある意味、汚い人生の方が歩みやすいのかも知れない。

日本は伝統、文化、芸術の素晴らしい国と言われているが、実はその裏では混沌とした汚れた考え、卑しい行為が蔓延している。弱者の為の救済と言いながら、自分の宣伝に使っている有名人。社会に貢献すると言って、国のお墨付けをもらいながらも裏では不当な行為を取っている団体。結局、口では綺麗な事を言っても、日本自体に信用がないのだ。美しい生き方なんてのは建前で本音は違う。

政治もそう、企業もそう、教育機関も。

本当は、どうなんだろう。美しく生きる、なんてあくまで理想なのか。

義なんてものは、口先だけで簡単に表しておけばいいものなのか。

やはり義など不要なのか。

否、違う。

あえて言おう。義、なくして人ではない。義のない奴は生きてまま死んでいるゾンビである。

目先の事も大切だが、人間として生まれたからには、次の世代、そのまた次の世代へとバトンタッチをしていかなければ、せっかく生まれてきた意味が無いではないか。

今は汚いかも知れない。しかし、その汚い生き方が当たり前だったものが、いずれ気持ち良く、美しい生き方に変わって欲しいのだ。

その考えはおかしいだろうか？

私も今年四十五歳。決して聖人君子ではなく、弱く、汚い人間だった。だからこそ黒かったものから白いものに近づけていきたい。残りの人生、何か気持ちの良いもので次世代にバトンタッチをしてみたい。それがいずれ、将来の若者達がそれぞれ日本の美しい生き方の文化を世界へと広げて欲しいと願ってもある。

義を持ち、気持ちの良い個・家庭・会社・国へと変えていく。そのために汚く生きるのではなく、美しく生きるように努めていく。決してそれは簡単な事ではなく、様々な誘惑にも忍耐・我慢、そして克服しなければならない。

だからこそ、しっかりと一本の道・筋を通した生き方を持たなければブレてしまうのだ。

これが義なのだ。

平成武師道。

たとえ少数でも思いは無限。その方向性を貫けば、必ず世界は日本の精神文化・武師道を受け入れるだろう。

そのためには我を美しく生きる。

共に学び、歩んでいこうではないか。

押忍！



佐々木